

韓国環境部プレスリリース 2020年3月17日付

京畿道と江原道の野生イノシシからASF ウイルス検出（野生イノシシ 379-389 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1354775&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は3月16日に江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョングン）華川邑（ファチョンウプ）および京畿道（キョンギド）漣川郡（ヨンチョングン）旺澄面（ワンジンミョン）で発見されたイノシシの死体11個体からASF ウイルスが検出されたと3月17日明らかにした。

□国立環境科学院は3月17日死体11個体からASF ウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで華川郡（ファチョングン）158件、漣川郡（ヨンチョングン）137件、坡州市（パジュシ）72件、鉄原郡（チョルウォングン）22件、全国で合計389件のイノシシASF陽性事例となった。

○野生イノシシASF標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に死体は処理された。

□国立環境科学院は「今回陽性となった死体は全て広域フェンス内で発見されており、そこは既存感染個体発見地点から100～500m離れた場所であった。この地域では感染死体がさらに出てくる可能性が高いため、徹底的に捜索している」と明らかにした。

以上